

## 令和6年度松山東高校通信制入学式式辞

今年、4月に入っても桜を楽しむことができる春になりました。その桜の花が、皆さんの御入学をお祝いしているような、そんな佳き日に、御来賓の皆様と保護者の皆様に、多数御出席いただき、令和6年度愛媛県立松山東高等学校通信制課程の入学式及び開講式を挙げていただくことは、本校にとって、大きな喜びでございます。

ただ今、入学を許可いたしました新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。皆さんを本校の生徒としてお迎えしたことを、心からうれしく思います。皆さんの心の中では、通信制での生活がどのようなものになるのか、期待と不安が入り混じっていることと思います。

そこで、私から皆さんに、通信制の高校生活、いわゆる通教生活を始めるに当たって意識しておいてほしいこととお話します。それは、自分を認め他人を認めるということ、別の言葉で言うと、自己肯定感を持ち、他者感覚を身に付ける、ということです。勉強や人間関係づくりは、全て思いどおりになるようなことはありません。でも、そのようなとき、悩み、頑張った自分を、自分で認めてあげてほしい、そして、同時に、周りにいる人も自分と同じような思いをしているのだと気付いて、励まし合ってほしい、と思います。

頑張っているけどうまくいかない、と落ち込むときに、思い出してほしい言葉が二つあります。一つめは、本校で教鞭をとったことのある夏目漱石が、芥川龍之介と久米正雄に送った手紙の中の言葉です。手紙には、「牛になることはどうしても必要です。われわれはとにかく馬になりたがるが、牛にはなかなかきれいな。」と書かれています。牛は馬に比べると、その歩みは遅い、でも、スピードや華やかさに惑わされず、根気強く、自分の信じた方法で努力を続けよう、ということなのだと思います。

もう一つは、「ひとりじゃないんだ頑張ろう」という言葉です。この言葉は、今から約60年前、皆さんの先輩が、本校の通信制の歌に応募した歌詞の中にある言葉で、今も、私たち教職員や在校生の合言葉です。レポートやスクーリングと仕事との両立で頑張っていた皆さんの先輩大原さんは、当時30歳を超えていた高校生でした。その大原さんの、自分への励まし、級友への励まし、心からの言葉です。皆さんは決して一人ではありません。通教の仲間がいます。先生方がいます。

牛のように根気強く努力を続ける自分を認め、頑張っている仲間を認める。自己肯定感を持ち、他者感覚を身に付けてください。「牛になることは必要です」「ひとりじゃないんだ頑張ろう」の二つの言葉を胸に、松山東高校での学び、かけがえのない出会いと経験を通して、自分をしっかり理解し、他の人たちとつながって、社会に羽ばたいてほしい。これが、私の願いです。

保護者の皆様、お子様の御入学、おめでとうございます。心からお喜び申し上げます。私たち教職員一同は、お子様が自分をしっかり理解し、他の人たちとつながって、社会へと羽ばたいていけるよう、また、他者を思いやる豊かな人間性を身に付けられるよう、力を尽くしてまいります。本校の教育活動に対しまして、御理解と御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

新入生の皆さん、皆さん一人一人が、新しい友人、よい仲間や先生方との出会いに恵まれ、豊かに成長されることを期待して、式辞といたします。

令和6年4月14日

愛媛県立松山東高等学校長 沖田浩史